

2018～2019年度
国際ロータリー第2510地区ローターアクト

第31回全国RA研修会 参加報告書



日 時 : 平成31年4月28日(日)～29日(月)

場 所 : 福岡国際会議場 ほか(福岡県)

ホスト地区 : 国際ロータリー第2700地区ローターアクト
(福岡県)

プログラム

	時刻	内容
4月28日 (日)	12:00 ~ 12:30	オープニングセレモニー
	12:45 ~ 13:30	開会式
	14:00 ~ 17:00	メインプログラム・全国代表者会議・ロータリアン意見交換会
	17:30 ~ 20:00	レセプション・懇親会
	20:30 ~ 22:30	代表者懇親会
4月29日 (月)	10:00 ~ 11:45	サブプログラム
	12:00 ~ 13:30	閉会式

国際ロータリー第2510地区 参加者

ロータリークラブ

国際ロータリー第2510地区ガバナーノミニー	福井 敬悟 様	(札幌手稲ロータリークラブ)
国際ロータリー第2510地区ローターアクト委員長	川下 和光 様	(札幌幌南ロータリークラブ)
国際ロータリー第2510地区ローターアクト副委員長	川本 康裕 様	(室蘭北ロータリークラブ)
国際ロータリー第2510地区ローターアクト副委員長	高橋 耕 様	(札幌幌南ロータリークラブ)
国際ロータリー第2510地区ローターアクト委員	齋藤 聡 様	(岩見沢ロータリークラブ)

ローターアクトクラブ

地区ローターアクト代表	小野寺知香	(赤平ローターアクトクラブ)
地区幹事	石川 樹	(赤平ローターアクトクラブ)
地区会計	鈴江 凌	(赤平ローターアクトクラブ)
地区代表ノミニー	上浦由莉子	(札幌幌南ローターアクトクラブ)

▶ 札幌幌南ローターアクトクラブ

小笠原悠介 コーエン・ソフィアン

▶ 赤平ローターアクトクラブ

北口 星 近藤 絢香 金野 凌 武田 洋平 橋本 結衣
長谷川大介

▶ 千歳ローターアクトクラブ

◎ 佐々木文也 城地 和哉

開催前日

第31回を数える「全国ローターアクト研修会」に、当地区からはロータリアン5名、ローターアクト14名の計19名で参加しました。
今回は、2021年3月開催予定の「第33回全国ローターアクト研修会」の開催地区立候補の承認を得ることが最大のテーマでした。
飛行機の都合上、開催前日に福岡に到着し、参加者全員で福岡の料理を堪能し、英気を養いました。



新千歳空港で腹ごしらえ



佐々木会長とソフィー



チーム2510!



もつ鍋で英気を養い中…



開催前日に飲みすぎた二人



夜遅くまで熱く語りました



新千歳空港から出発前…北海道の魅力をたっぷり載せた全研PR旗も作成しました!

開会式

4月28日（日）は、開会式や代表者会議、メインプログラム等盛りだくさんの1日でした。

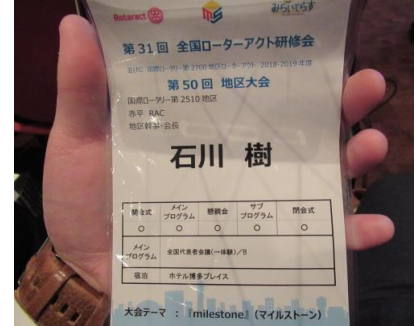
はじめにインターアクターと合同でオープニングセレモニーが始まり、その後開会式が始まりました。全国のみならず台湾の地区からも参加があり、多数のローターアクターが一堂に集まる会場の雰囲気は、毎年度参加しても身震いするほど感動しました。



会場に到着しました！



受付の様子



今年度のネームはこれ！



式典会場の様子



2700地区岡野ガバナーご挨拶



共同開催の経緯説明



司会、お疲れ様です



中島実行委員長による開会の辞



灘谷ガバナーエレクトご挨拶



西田地区RA委員長ご挨拶



村上地区RA代表ご挨拶



中島実行委員長ご挨拶

全国33地区 代表者会議

開会式終了後、全国33地区代表者会議が行われました。

当地区の1番の目的である、2020～2021年度「第33回全国RA研修会」のホスト地区の承認をいただくため、小野寺地区代表がプレゼンしました。いくつかの質問や意見がありましたが、多数の地区の賛成により、無事承認をいただくことができました。今後はより一層努力し、準備を進めていきたいと思えます。



会議場の様子



議長団を務める2700地区



第32回全研山田実行委員長



小野寺地区代表のプレゼン



アクト1,000人計画目指します



第30回全研の決算報告

■全国33地区代表者会議の議案および内容、議決■

○報告事項

【第1号議案】第32回全国RA研修会について

→ ホスト地区である2760地区から、開催概要をはじめ各地区ブースの配置依頼、宿泊場所は原則各地区が確保するよう要望があった。

【第2号議案】全国RA研修会要項の変更漏れについて

→ 上記事項について、2560地区から報告があった。

【第3号議案】全国RAの連絡体制引継ぎについて

→ 上記事項について、2560地区から報告があった。

○審議事項

【第1号議案】第30回全国RA研修会決算報告書について

→ 2800地区から各事業に対する決算報告があり、全会一致で可決承認された。

【第2号議案】第33回全国RA研修会ホスト地区立候補について

→ 2510地区から提案し、主に予算の提示について質疑が挙がったが、後日大枠が固まった段階で提示することとし、過半数を超える承認により可決承認された。

【第3号議案】新ゾーン編成におけるエリア編成について

→ 現行のゾーン編成のまま、名称のみを「ゾーン」から「エリア」とすることで、賛成多数により可決承認。

【第4号議案】全国RA研修会における繰越金の取り扱いについて

→ 余剰金を「繰越金」とし、全国代表者会議にて決算が承認されたのち、次年度ホスト地区に振り込む取り扱いで可決承認された。

※ 協議事項の記載は、紙面の都合上割愛する。

その他の プログラム

全国33地区代表者会議と同時並行で、義務出席者以外は各メインプログラムに参加しました。福岡ならではのプログラム内容に、参加者は楽しい時間を過ごすことができたと同時に、他地区の皆さんと交流することもできたようです。

また、ロータリー部門の会議も行われ、地区会員数の増強について、たくさん参考になる話題があり、情報共有していただきました。



伝統工芸にチャレンジ！



織物体験は貴重です☆



当地区でも参考にしたいですね



博多人形の絵付け



他地区の皆さんと共同作業中



ラーメンスープの味覚体験も



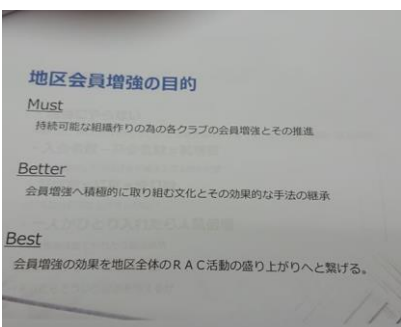
福岡の文化を沢山学びました



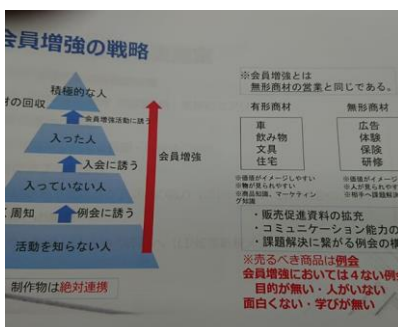
伝統は次の世代に残したい



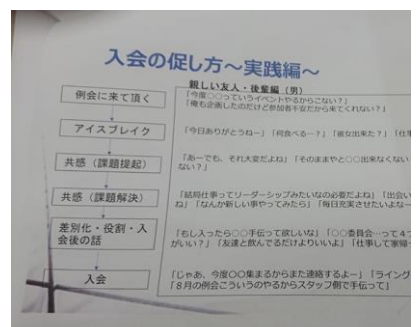
この日体験したのは「小倉織」



ロータリー部門のテーマ



アクトにも共通しています



会員増強は永遠のテーマです

懇親会

懇親会は立食形式で、福岡の「明太子」などに舌鼓を打ちながら、積極的に他地区の皆さんと交流しました。また、事前に33地区で撮影した動画が上映され、大変盛り上がりました。

また、途中のゲームでは、当地区からコーエン・ソフィアン第33回全国RA研修会実行委員長が参加し、見事優勝！2年後の開催を存分にPRすることができました。



おいしそうな料理がズラリ…



明太子はすぐ売り切れました



乾杯の音頭



次年度の開催地は愛知！



チーム台湾に紛れ込む長谷川くん



1日目、お疲れ様でした！



ゲームで優勝し、PRタイムを沢山いただきました！…ということで、第33回全研をPR(^_-)☆

サブ プログラム

2日目は、例年のような基調講演ではなく、全国からエントリーした数地区が、自地区の自慢したい、PRしたい活動をプレゼンテーションする「RAC-1グランプリ」を行いました。

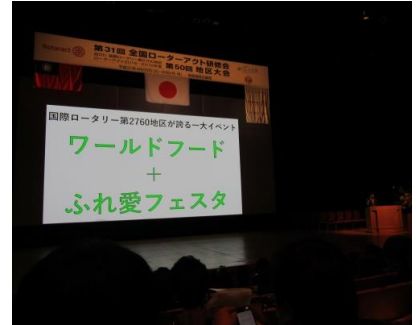
当地区も中島実行委員長直々の依頼により出場し、「交通安全PR自転車リレー」について紹介し、見事優勝！ ちゃっかりここでも、第33回全国RA研修会のPRも行いました。



RAC-1グランプリ、スタート！



献血…印象に残るプレゼンでした



様々な活動、参考になります



いよいよ2510地区の時間です



プレゼンする石川地区幹事



ロータリーの友に掲載されました



交通安全PR自転車リレーの紹介の後に…第33回全国RA研修会のPRも行いました！

閉会式

長いようで短い2日間のプログラムがすべて終了しました。

全研開催旗は次年度ホスト地区である2760地区（愛知）に引き継がれ、その次は当地区に引き継がれます。

参加者はそれぞれ感じたこと、学んだこと、発見したことがたくさんありましたので、適宜話し合っ、素晴らしい全研を創り上げることができるよう、一致団結していきたいと改めて思いました。



第30回全研の開催報告



APRRCのPRタイム



代表者会議決議事項報告



上浦次年度地区代表決意表明



全研開催旗引継ぎ



村上地区代表ご挨拶



西田地区RA委員長のご講評



安増副ガバナーのご講評



中島実行委員長による閉会宣言



点鐘…お疲れ様でした！



現地区代表集合写真



次年度地区代表集合写真

『第31回全国ローターアクト研修会を終えて』

国際ロータリー第2510地区
ローターアクト委員長 川下 和光

去る、4月28・29日に国際ロータリー第2700地区（福岡県）にて開催されました第31回全国ローターアクト研修会に、福井敬悟ガバナーノミニーをはじめ地区ローターアクト委員会から4名ローターアクト14名で参加してまいりました。

当地区参加者は、前日の27日から福岡入りし全員で全研に向けて気持ちを上げるべく懇親会を開き翌日の代表者会議内での候補地立候補プレゼンについて話したり、その他の一般参加者にどのように交流しPRするかを話しながらアクターそれぞれがいろいろと考えていたように思えます。

さて1日目は開会式終了後、代表者会議部門・ロータリー部門・一般参加者部門分かれそれぞれがいろいろな体験をいたしました。

代表者会議部門では、第33回全国ローターアクト研修会開催地としての立候補及びプレゼンを行い無事に開催地として承認いただきました。これから約1年間で8割程度の準備を終わらせ、1年2ヶ月で32地区を周りPRをおこなってまいり当地区ローターアクトで掲げておりますローターアクト1000人計画（登録人数）実現に向けてコーエン・ソフィアン（札幌南RAC）実行委員長を中心として地区委員会メンバーもサポート体制を充実していかなければと思う気持ちがより一層強くなりました。

ロータリー部門では、それぞれの地区内での問題点やこれからの課題などをグループに分かれ話し合いました。それぞれ沢山の意見を聞くことができとても有意義な時間を過ごすことが出来ました。

一般参加のアクターは、全国のアクターとグループに別れ市内をめぐり福岡の歴史等に触れて良い時間を過ごしたのと自地区以外のアクターとの交流はよい刺激になったものと思います。懇親会では、新たな交流を深めアクター自身で他地区アクターと情報交換等行っておりました。なかには一年ぶりに合うアクターも居たようで再会を喜ぶシーンもありました。懇親会終了後は、代表者部門参加者以外の福井ガバナーノミニーを含む当地区参加者で2次会を催しそのなかで1日目の感想や反省会を行いました。アクターからはいろんな意見を聞くことができよかったですと思います。このなかで聞いた沢山の意見は第33回全国ローターアクト研修会に活かせるようにしたいと思います。

2日目は、例年の基調講演ではなく各地区自慢の地区行事を発表するという事で全国33地区の中から5地区が選ばれ当地区の交通安全祈願自転車リレーを発表しみごと最優秀地区行事として表彰されました。

2日間を通して、アクターの交流はしっかりと出来たように思える。しかしここ数年全国ローターアクト研修会に何かを併せた形で開催されることが見受けられるが中には代表者会議が疎かになってしまったり、来賓出席者に対して対応が明らかにおかしい状況がみられる。当地区開催の全国研修会ではそのようなことが無いようにローターアクトとしっかりと準備をすすめていきたいと思えます。

『第31回全国ローターアクト研修会に参加して』

国際ロータリー第2510地区
ローターアクト副委員長 川本 康裕

2019年4月28日～29日福岡市に於いて「第31回全国RA研修会」が開催された。

今回は初の試みであると思いますが、インターアクト研究会と同時開催するという研修会となりました。

また合わせて第50回地区大会も開催するという実に盛りだくさんの内容となりました。

今回は全研についての感想ということですが、何といたっても代表者会議において、正式に第33回全国ローターアクト研修会が決定したということだと思います。

後わずか2年しかありません。実行委員長のコーエン・ソフィアン君を中心に全研における本来の姿をもう一度全国のローターアクトに考えてもらうとともに北海道のすばらしさを最大限表現できる研修会となることを期待しております。

ローターアクトメンバーひとりひとりが主人公です。君たちが輝くことによりローターアクトクラブが活性化するのはです。その時、本当の「絆」が生まれると思います。

次々年度は「第33回ローターアクト研修会札幌大会」を成功させるべく全道のロータリークラブに協力を仰ぎ、成功するように頑張りましょう。

『全国ローターアクト研修会を終えて』

国際ロータリー第2510地区
ローターアクト副委員長 高橋 耕

さる4月28日に福岡市で開催された全国ローターアクト研修会に参加してきました。

今回はインターアクトの全国大会とローターアクトの全国大会の同時開催、および2700地区の年次大会をあわせた大会であった。同時に開催することによって準備する側の負担はかなり軽減されたと思われ、予算的にも同時開催することによって圧縮できたのではないかと推察される。一つの行事を準備、企画する労力、予算等を鑑みたときに当然の発想と思います。

ただ同時開催した場合の問題点も垣間見えた大会であったとも感じております。本来一つの行事には目的が明確にあり、参加する側の立場もそれによって明確になっている。今回はそれが明確ではなく、年次大会を意識した進行の場面では全国研修会を目的に参加した我々は少々置き去りになったような感覚を覚えた。たとえば言うなら、学校の教員の負担を考慮して軽減させるために入学式と卒業式を同時に開催したと表現しても遠からずではないだろうか。地区によって、アクト、インターに対しての考え方、視点の違いを実感した。

2年後に札幌で開催される全国ローターアクト研修会を考えたとき、より多くにアクターに参加してもらうためには、地区外のアクターへのより一層の告知やPRが必須である。しかし、それには自分たちの予算では限界があり協賛金が必要となるため、同時に地区内ロータリアンへの周知も不可欠であると考えます。昨年に全国ローターアクト研修会を開催した地区のアクト委員長とお話しする機会があったが、資金集めに苦慮したと話しておられた。

当地区のアクトに対して、さまざまな課題はありはするがひとつひとつ解決していくことを繰り返しながら全国ローターアクト研修会の準備をしてほしいと思っております。そのなかで、地区ローターアクト委員会としてなにができるかを知恵をしばり、微力ながらサポートしていけたらと思っております。

『全国研修大会感想』

国際ロータリー第2510地区
ローターアクト委員 齋藤 聡

■受付

もう少し人数を減らし、クローク機能も一緒にできればいいと思います。

■オープニング

オープニング開会のための点鐘、閉会のための点鐘は必要ないのでは？

1日目開会点鐘、2日目閉会点鐘になると思います。

■式典

国旗の大きさは必ずそろえること。アイロンをしっかりとかけて。もしくは、看板と一緒に掲載する。

■ロータリー分科会

事前に10名ずつの分科会になる旨を周知してほしかったと思います。また、テーマに沿った資料を各自持ち寄ってもらうとより有意義になったと思います。

■懇親会

アクトのパフォーマンスでのオープニングを望みます。

料理4回転。事前に周知すべきだと思います。

地区各クラブのポスター、せっかくいいものでしたが誰も見ていません。周知の方法を考えるべき。

アトラクションは、もっと単純でわかりやすいものがいいと思います。時間短縮を考えるのであれば、ラインなど別の方法で事前ゲームをしてPRタイムをすればいいと思います。

■閉会式

もっと分科会、会長会の内容などを詳しく伝えたほうがいいと思います。

写真撮影は、事前にリハをして、席には導線を事前準備するのが望ましいと思います。

御菓子は必要ないと思います。（どこの施設も飲食禁止だと思います。）

最後に、来場者名簿を映像で流す。2日間の写真を交えながら。結婚式のエンディングビデオの様に。

■その他

プログラムはもっと企業協賛を集めるべきです。

LINEを駆使して、登録者には事前情報、研修会内容、生情報発信、専用ゲーム、お土産、二次会情報などワクワク楽しい内容を発信することで臨場感が増すと思います。

旗は必要？画像もしくはパネルではどうでしょう？

『第31回全国RA研修会報告書』

国際ロータリー第2510地区
ローターアクト代表 小野寺 知香

平成31年4月28日から29日にかけて、福岡で開催された「第31回全国ローターアクト研修会」へ参加してまいりました。

今回の参加者はローターアクター14名、ロータリアン5名、総勢19名での参加となりました。

私は全国ローターアクト研修会への参加が今回で2回目となりますが、昨年初めて参加した茨城での研修会から、若干ではあるものの参加人数も増え、なによりも私が所属している赤平のクラブ会員全員で参加できたことが大変嬉しく感じました。

今回の研修会では、私は地区代表として全国地区代表者会議に参加し、2年後に開催される「第33回全国ローターアクト研修会」のホスト地区立候補として発言をする場がありました。

昨年度から当地区では全研の実行委員会を立ち上げ、全国ローターアクト研修会という大きな行事をホストするに当たって、手探り状態の中ではありますが、各部会一人一人が知恵を出し合って今日まで準備をすすめています。

今回の研修会での私の1番の目的・役割は、全国地区代表者会議でホスト地区立候補として発言し承認を得ることであり、承認を得るためには、これまで各部会で準備してきたこと、当地区としてどういった思いを込めて今後準備をすすめていきたいのか、そういった部分も伝えなければいけないと思いました。

昨年の全国地区代表者会議ではノミネーとして参加し、たくさんの意見が交わされていく様子をただただ見ているだけだったため、いざ発言する立場となった今回の全国地区代表者会議は、まるで違う会議に参加しているように感じるほど緊張していたのを覚えています。

いくつかの意見・質問等があったものの、無事ホスト地区立候補の承認を得ることができましたが、今振り返ると「もっと良い回答があったなあ…」「こう答えればよかったなあ…」と個人的な後悔が多い会議となりました。

ノミネーとして、地区代表として2度参加した全国地区代表者会議ですが私個人としての意見を述べるとすれば、年に1度しかないこの大事な会議を一層有意義な会議にするため、次年度への練習としてノミネー部門の代表者会議があっても良いのではないかと思います。

このような事も含め、2年後当地区が開催することとなった全国ローターアクト研修会は当地区一丸となって盛り上げ、今後さらに準備をすすめていきたい、そんな風に思っています。

その後の懇親会では、茨城で出会った同期代表と再会し、1年を振り返ってお互いどんな1年だったかをはじめ、アクトの活動だけにかかわらずざっくばらんに色々な話をしながら楽しむことができました。

そのほか、第33回全国ローターアクト研修会の実行委員長となるソフィと一緒にあいさつ回りもさせていただき、本来であれば私が彼を引っ張ってサポートをしていかなければならないところでありましたが、隣で話す彼の様子を見てみると、そんな心配もあつという間に薄れていきました。

茨城の研修会、そして今回の福岡での研修会…どちらも同じ研修会とはいえ、気づきや学びは違い、それぞれの研修会の良いところをどのように生かしていくかこれから振り返りができればと思います。

次年度は愛知県での開催となりますが、今回同様多くのメンバーで参加し、たくさんの学び・思い出を持ち帰ってこれたらいいなと思います。

最後になりますが、お忙しい中ご参加いただいた福井ガバナーノミニーをはじめ、ローターアクト委員会の皆さん、そしてローターアクターの皆さん、二日間ありがとうございました。また、今回ホスト地区として準備をすすめてきてくれた2700地区の皆さんに厚くお礼申しあげ、私からの報告とさせていただきます。

『現役最後の全国RA研修会に参加して』

国際ロータリー第2510地区
ローターアクト 地区幹事 石川 樹

4月28日から2日間にかけて、福岡県で開催された「第31回全国RA研修会」に参加してまいりました。私自身4回目、そして現役最後の全研であると同時に、2021年3月開催予定の「第33回全国RA研修会」のホスト地区の承認を得るという大きな目的のもと、福岡県を訪れました。

内容等については報告書のとおりで、例年記載している感想と同じになるので大半を割愛しますが、やはり「全国RA研修会の目的」、「全国代表者会議のあり方、進め方」、「ホストとしての細やかな配慮、おもてなし」という3点は欠かすことのできない視点だと思います。

全国RA研修会の目的は、「情報交換」や「交流」といった点がメインかと思いますが、これはあくまで主役はローターアクトであることから、参加ローターアクター全員が、その全国RA研修会を創り上げるという意識が必要であります。そのような観点から、今回のようなインターアクトや2700地区年次大会との合同開催は、果たしてこの目的に沿っているのかは、入念に検討すべきかと思います（予算や事業の透明化も含めて）。

次に、全国代表者会議についてですが、全国代表者会議の目的は、全国RA研修会のホスト地区決定や決算報告のほか、全国33地区に係る課題や問題提起および協議かと思いますが、決して自らのエゴの押しつけや自己満足な意見を述べることのないようにすべきと考えます。

そのために「ロバート議事法」により、議論の終着点を議長や各地区代表が念頭に置きながら、全国33地区がよりよい方向性に向かっていくかを考えながら進行することが重要であります。議長を含め、全国33地区の代表者がその意識・方向性を軽薄化させないよう、前年度から然るべき準備、意識付けが大切だと思います。

続いて、ホストとしての細やかな配慮、おもてなしについて、例えば席順や名簿の表記順、掲揚旗の大きさ等については、明らかにチェック体制が欠如していたと思います。また、登録セットに参加者名簿が入っていなかったり、お土産が入っていなかったりという方も散見されました。加えて、2日目のサブプログラムにおいては、当地区含む数地区がプレゼンテーションの準備をしていたにも関わらず、先に2700地区内全てのクラブがプレゼンテーションを行ったために、参加者が飽きてしまい、私たちが発表するころには空席が目立つ等、参加地区や参加者に対する配慮、おもてなしが欠けていると感じてしまうシーンが目立ちました。

ホスト地区として、ある意味では最も大切な心がけだと思いますし、この気持ち如何ではせっかくの研修会が悪いイメージとなる可能性もあることから、様々な行事をホストする際には、この意識を常に持ち、醸成していつてもらいたいと思います。

長々と書いてしまいましたが、もっともっと後輩たちに伝えたいことやロータリアンの皆様をお願いしたいことが沢山あります。しかしながら、もうすぐで現役という立場ではなくなってまいりますので、皆様から求められれば、私が思うことや感じたこと等についてお伝えできればと思います。

全国RA研修会は、ホストであるローターアクターが実現したいこと、学ぶことができる、有意義な時間を過ごすことができる時間、楽しいと感じるものでなければ、参加者にとっても面白みのない時間になってしまいます。昔の方法、今の方法…選択肢は様々ですが、その時その時で状況や環境、メンバーも異なります。「現在」の状況をしっかり見極めながら、ローターアクターが充実した2日間を送ることができるよう話し合い、準備し、当日を迎え、皆様をおもてなししていただきたいと思います。

最後に、後輩たちにはもっと前向きに、好きなようにこの機会を活かしてもらいたいと思います。また、ロータリアンの皆様におかれましても、現役のローターアクターがやりたいこと、実現したいことに対し、一人ひとり耳を傾け、決して批判をせず、命令や指示ではなく後押しをしていただけると幸いです。このような体制や環境づくりができれば、必ずや素晴らしい全国RA研修会になると信じています。

個人的には、全国多数の皆様と交流し、サブプログラムのプレゼンテーションという素晴らしい役目を果たせ、帰道後のちょっとしたハプニングが思い出に残りました。参加した皆様、お疲れ様でした。

『第31回全国ローターアクト研修会に参加して』

国際ロータリー第2510地区
ローターアクト 地区会計 鈴江 凌

第31回全国ローターアクト研修会（以下、全研）は4月28～29日に福岡で開催されました。その全研の中で行われた、代表者会議で私たちが現在準備している第33回全研の第2510地区開催が承認を受け、正式に決定しました。

そうして、私たちが全研を開催するまであと、2年を切っている状況になり、良いところ、悪いところ去年の茨城開催の全研と比較してどうだったかなど色々学ぶ必要があった全研でした。

個人的に良かった！すごかった！と思う点は、福岡らしい一般プログラムが多かったところや台湾から60人近く参加者がいたことや、二日目のプログラムが基調講演ではなく"R-1グランプリ"というプログラムだったという部分などです。

"R-1グランプリ"は全国の中で選抜された、いくつかの地区が自分の地区の目玉行事を紹介し、会場のみんで一番良いと思った地区を投票（スマホで）し、一番を決めるというものだったのですが、普段あまり他地区と関わりが無いのでそういうものを知れる機会として、また私たちが第2510地区が発表者のPRの上手さもあって投票の結果一番になったこともあり基調講演より良かったと思いました。

また、自分たちが開催するときは気をつけようと思った点は一般プログラムの中身自体は良かったのだと思いますが、自分が参加した観光コースでは人数が多すぎてホスト側で上手くまとめることが出来ていなかったという印象がありました。時間が押していたり、各施設での見学時間が短かったり、そういう部分では外に出るプログラムは個人的には歓迎なのですが時間調整や大人数を野外でまとめることのむずかしさを感じました。

このように、細かいところでは良かった点も悪かった点も色々あますが、2年後に向けて1つ大きな課題として感じたのが、地区の人数の少なさです。

今回の全研では来年全研開催予定の愛知のアクターがたくさん来ていて、沢山PRしていました。距離の問題やもともと人口の問題などあるとは思いますが、私たちが掲げている全研テーマ"アクト1000人計画"という目標を考えたときにPRはいくらしてもしすぎということは無いと思いますが、今の人数でどれくらいPR出来るのか…という事を考えてしまいました。

正式に承認されたことで、これからは準備とPRがより一層本格していきます。その中で、今回の全研で学んだことや、感じたことを無駄にせず、各クラブ、不参加者にも伝え、その経験を共有し私たちが開催するときに少しでも役に立ちいい方向に進む糧とすることが、今回参加した人たちの責務だと感じました。自分もあと一年で卒業ではありますが準備・PRなど積極的に頑張ろうと思いました。

以上簡単では、ありますが私の第31回全研に参加しての感想となります。

『第31回全国RA研修会感想文』

国際ロータリー第2510地区

ローターアクト 地区代表ノミネー 上浦 由莉子

次々年度に自身の地区で全国ローターアクト研修会を開催することや、次年度地区代表を務めるにあたり、今回の福岡での全国ローターアクト研修会はより特別な機会となりました。

福岡での研修会で印象的だったことの一つは、RAC-1グランプリの景品が愛知の名産品であったり、懇親会以外で次年度の開催地は愛知であることがわかったりなど、今年度開催地の福岡と次年度開催地の愛知の連携が見えたことです。来年度、実際に連携できるか否かは別として、個で開催するという意識ではなく、愛知からのバトンを受け継いで開催するという繋がりイメージを持ちながら準備を進めていければと考えております。

また、各地区の紹介文を冊子に入れていたのも印象的でした。第2500地区以外とは地続きではないこともあり、普段気軽に他地区と交流できず、知る機会が圧倒的に少ないのが私の悩みの一つでした。また、Face Book等のサイトではその時々活動は見ることもできて、地区のおおまかなイメージはなかなか掴めなかったり、個々で情報を見ることしかできず、手元に全地区の情報を置けないという現状でした。今回のこの試みにより、他地区のおおまかなイメージがわかり、大変嬉しく感じました。ご当地の名産品がわかるのも魅力的でした。今後はこの冊子を用いて他地区へ行く際の参考にしたいと思います。

また、アクトが作っている、アクトが発信している、という印象が強い研修会でした。全地区が均等に作り手に回することは難しいですが、少なくとも懇親会や2日目など、外部に頼りすぎることなくアクトが発信するようなプログラムを作っていく姿勢は参考になりました。特にRAC-1グランプリの前のクラブ紹介では、人数の多い少ないに関わらず、それぞれが生き活きと自クラブのことを発信している姿を見て、勇気をいただきました。全国ローターアクト研修会だけでなく、今後の各クラブのありかたを考えたり、課題を解決する際の参考として役立てていきたいです。

代表者会議においては、発言権がない中でどういう動きが行なわれるか、どういう流れで会議が進むのかはおおよそ把握できました。ただ、同時に自身のローターアクトに対する知識不足や、会議というもの自体への認識不足を痛感する時間でもありました。実際に意見を言って、なおかつ失敗が許される場で、経験を積みたいとも感じました。

また、会議の中で、小野寺代表による全国ローターアクト研修会に関するプレゼンが行なわれましたが、その後の質疑応答で現在の自地区の会員数に関して心配の声があがりました。

「アクト1000人計画」を立てていることから、なおさら企画・運営にあたる人数は必要かと思われそうです。改めて、各クラブの会員が現在の会員と共に楽しく、またローターアクトクラブの奉仕と親睦にのっとった活動をしながら、会員数の増強をはかることができると感じました。

それと同時に、人数だけ増えてしまい、自主的に行動できる人数は少ないと言ったことのないよう、今いる会員1人1人がクラブや地区内、地区外の活動に対して自発的に取り組み、個々の成長やクラブ、地区の発展が望めるような基礎作りを次年度行ないたいと考えております。

最後に、ご多忙のところ本研修会に共に参加して下さった福井敬悟ガバナーノミニー、川下ローターアクト委員長をはじめとするローターアクト委員の皆様、またローターアクターの参加にあたりご支援くださいました提唱ロータリークラブの皆様、大変ありがとうございました。

『全国ローターアクト研修会感想文』

国際ロータリー第2510地区

札幌幌南ローターアクトクラブ 小笠原 悠介

2日間の福岡での全国ローターアクト研修会に参加し、全研をホストする上で、次年度1年間地区幹事を務める上で必要になるだろうことを学ぶことができました。今回はその中で3つのプログラムについて書いていきます。

1つ目は開会式についてです。全研の会場に入ったら最初は地元の高校の箏曲部の演奏から始まりました。全研の第一印象は会場に入ったときに決まるという点、琴の演奏は非常にインパクトのあるものでこれからすごい会が始まるのではないかと期待感を持たせてくれるものでした。当地区の全研でも開会式やその前の時間に何かインパクトを残せる催し物があれば面白いかもしれないなと思いました。また、外部の方をお願いして何かやってもらう場合会員増強のチャンスにもなると考えました。しかし、今回せっかく高校生が琴を演奏していても全体的にちゃんと聞いていない人が多い印象を持ちました。ものによってはこういった状態が失礼にあたることも懸念されるため、もし当地区の全研でもこのような事を外部の団体等をお願いするのであれば、方法は考える必要があると思いました。

2つ目は代表者会議についてで、ここでは小野寺代表の当地区での全研開催の承認プレゼンをはじめ、いくつかの報告事項や審議事項、報告事項について会議を行いました。全体的な流れを見て思ったことは、資料の読み込みや不明点等の洗い出しを事前に行っていないと会議に出てもあまり意味がないということ、質疑応答する上でその議題における優先順位は何かを考える必要があるということです。私自身代表者会議を見るのは初めてでしたが、地区代表同士での質疑応答でメインの議題から逸れた内容のものがあつたり、重箱の隅をつつくようなあまり重要度及び優先順位の低いと思ってしまうものがあつたりと、効率が悪いと感じてしまうところもありました。次年度も私が発言権を持つわけではありませんが、今回私が感じたことを当地区がやらないためにも事前に資料を読んで代表と話し合っておく必要があると思いました。

他にも全研をホストする側として学んだことは、代表者会議は時間調整との戦いであるため当日はここと懇親会との連携が必須になってくるということです。懇親部会としてここは盲点だったため、今後話を進めるうえで注意していきたいです。

3つ目は懇親会についてです。全研の懇親会は人数が多すぎるため人脈を増やす機会として歓談という手段には限界があると感じました。千人近い人が一度に会するからこそ人脈を増やす有効な手段をホスト側として仕掛けていった方が面白いのではないかと考えました。ここは今後考えていきたいです。また、福岡名物の辛子明太子が懇親会会場に出されていたのですが、人気だったため食べられない人も多かったと推測されます。当地区ホストの懇親会で北海道名物を出したいという話が上がっていましたが、やり方を工夫しないと今回みたいに食べられない人が多く出て、懇親会の満足度を上げられない可能性があると思いました。ここは今後対応していきたいです。

他にもいい点も悪い点も含め勉強になることがあり非常に充実した2日間となりました。今回のことを活かしてこれから全研のホストや地区及ぶクラブでの活動を行っていきたいと思います。また、今回参加できたのは提唱ロータリーのロータリアンの方をはじめ、一緒に参加してくださったロータリアンの方、クラブの会員たちのおかげだと思っています。このことをちゃんと認識して今回の経験を無駄にしないようにします。

『全国ローターアクト研修会感想文』

国際ロータリー第2510地区
札幌南ローターアクトクラブ
コーエン・ソフィアン

初めての全国研修会でかなり勉強になりました。実行委員長になったと言っても、全国研修会とはどのような行事なのかをよく把握していませんでした。ですが、それで実行委員長としてどのような方向に進めばいいか少しでもわかってきた気がします。

前の日に着いて、地区で懇親会を開くのが非常に良かったと思います。全国研修会で他地区のローターアクトと交流できる場にもなれば、自分の地区のメンバーとの関係を深める場でもあることに気づきました。

ホテル二つとも会場から歩ける距離にあって交通が楽でした。

開会式で箏の演奏もすごくいいと思いました。どうせ開会式が始まる前に待つ時間はあるから、そういうパフォーマンスがあると待っている人がその時間を楽しむことができます。私たちの全研でも同様なことをやってみたいと思いました。

プログラムに関しては、フィールドワークに参加しました。コンセプトとしてすごくいいと思いました。ドラゴンクエストのようなセッティングで、魔王に奪い取られた世界の光を取り戻そうとする話でした。団ごとで分けられて、フィールドワークが始まるときとても盛り上がりました。団ごとで人を分けることがいいことで、他地区のメンバーと仲良くなって楽しかったです。しかし、フィールドワークというよりも、普通の観光のような感じでした。最初のゲーム性が徐々に薄くなっていき、多少残念でした。フィールドワークの終わりに福岡の全権のテーマを表した「マイルストーン」のピンバッジをもらいました。ただし、それはフィールドワーク参加者と他に決められた人しかもらわなくて、それも残念に思いました。それでも、プログラムを行う福岡のローターアクターは全力を出している感が非常に伝わってきて、私も全力で応援して参加しようと思いました。

懇親会で食べさせてもらった食べ物も美味しくいただきました。2021年の全研のPRでずっと休まずに名刺交換行っていたが、やはり各地区は自分のメンバーと盛り上がり、入りにくいところがありました。小野寺代表と一緒に回っていたが、その日知り合った人や小野寺代表の知り合いとしかなかなか名刺交換できなくて、少し残念に思いましたが、名刺をおよそ70枚交換できて、今回のPRは成功したと思います。様々な人から応援の言葉をいただき、2年後の全研で実行委員長として頑張る今回に負けないほど素晴らしい全研を皆で企画していこうと思いました。懇親会の始まりの動画で日本全地区に努力をしてもらって力を入れたので、動画を見て最初からいい気分で懇親会に参加しました。PR時間を決めるためのミニゲームもとても楽しかったです。2次会がなかったことは、北海道の皆との関係を深めることができたが、他地区のメンバーと名刺交換以外の時間はなかったのも、少々残念に思いました。

2日目で、2700地区の地区大会に参加し、大変勉強になりました。次年度札幌南ローターアクトクラブの会長を務めさせてもらうので、2700地区の各クラブの活動や例会を見て、次年度の活動でも活かせるようなアイデアを見させてもらった気がします。それまで地区大会の価値をよく理解していなかったと思うが、これから積極的に他地区の地区大会にも参加したく思いました。その次行われた地区活動スピーチコンテストからも、他地区の行っている活動を見られて色々参考になりました。

初めての全国研修会で行く前は少し緊張していましたが、行ってすごく良かったと思います。全国研修会に参加したことがないとローターアクトの良さを完全に理解できないなと思いました。地区の行事でいつも会っていた2510地区のローターアクターでも、全研までは知り合い程度の関係であったにもかかわらず、とても仲良くなれた。今回の福岡の全国研修会で、私も2510地区の一員だ、と再び感じました。このような素晴らしい全国研修会を企画し、ホストしていただいた2700地区の皆さんに感謝と敬意の気持ちでいっぱいでした。2021年の第33回全国研修会in札幌の実行委員長としても心強くなりましたので、頑張りましょう！

ちなみに、福岡のラーメン最高に美味しかったです！

『第31回全国ローターアクト研修会感想文』

国際ロータリー第2510地区
赤平ローターアクトクラブ 北口 星

○移動日（4月27日(土)）

大型連休のため渋滞や駐車場の混雑が心配でしたが、飛行機が14時の便だったので時間に余裕を持って行動することができました。空港内で福岡へのお土産を買い、その後はみんなでゆっくりと昼食のラーメンや食後のカフェを楽しみました。

福岡に到着後、宿泊先の「変なホテル」へ向かいました。受付担当の恐竜(ロボット)が迎えてくれましたが、機械が相手だったためチェックインではかなりの時間がかかりました。

チェックイン後は2510地区で前夜祭をしました。今回の全研はわくわくする気持ちよりも、全研年度に向けての勉強をする大事な日となるため気を抜くことが出来ず、不安や緊張といった気持ちのほうが大きかったのですが、前夜祭で多少は気持ちがほぐれた気がしました。

○1日目（4月28日(日)）

受付が11時から開始だったため、朝は少し余裕があり助かりました。

会場に入ったときに、去年茨城に行った時とどこか雰囲気が違うな…と思っていたのですが、インターアクトの研究会や2700地区の地区大会が同時に開催されることを会場に入ってから知りました。始まる前に看板等で気が付けなかったことを反省し、同時に、事前にSNS等をチェックしておくことも必要だと感じました。

メインプログラムでは、「福岡市内フィールドワーク」に参加させていただきました。神社でのお祓いからスタートし、その後は決められたコースをチームごとに歩きました。ミッションがあったり、時間が限られていたり、雨が降ってきたり、思ったより歩く距離が長かったりと大変でしたが、同じチームの人たちと仲良くなり、楽しい時間を過ごすことができました。メインプログラムについては、若干時間が押しているのが気になりましたが、昨年参加した全研の時よりは移動時に混雑することが無くスムーズだと感じました。また、風船を使った誘導が非常に分かりやすかったです。

小さなメッセージカードに書いた、2700地区からのひとことメッセージが会場内やトイレの鏡の前に飾られていました。あまり目立つものでは無かったのですが、“細かいところまでチェック”を心掛けていたので、見つけたときに少し嬉しい気持ちになりました。このような、ちょっとしたおもてなしも是非参考にしていきたいです。

○2日目（4月29日(月)）

10時からサブプログラムとして最初に2700地区の各クラブの例会報告を聞きました。それぞれのクラブに個性があり、どれも見ていて面白かったです。いくつかやってみたい例会があったので、機会があればクラブに提案していきたいです。

地区行事のPRをするアクトグランプリでは、5つの地区がエントリーしており、どれも興味が湧いてくるような内容ばかりでした。2510地区もエントリーし、自転車リレーについて発表しました。ついでに地区大会や全研のPRができ、更に参加者からの投票で最優秀賞をとることもできて嬉しかったです。

解散後は飛行機の時間まで自由時間で、行きたかったところに行けたので良い思い出になりました。雨で飛行機が遅れていて乗り継ぎができない心配がありましたが、大きなトラブルもなくみんなが無事に北海道に帰ることができ安心しました。

〇まとめ

昨年は訳も分からないまま参加させていただいた全研でしたが、今回は目的を持っての参加で、勉強になる事がたくさんありました。そして、全研の部会長になったことが自分にとって、とても良い刺激となっていることに気付いた3日間となりました。今まで行事への参加は積極的にしていましたが、行事運営に関しては苦手意識のほうが高かったせいか、全くマナー等が身に付いていない状態だと感じていました。ですが、今回の全研では“お客さん”として参加するのではなく、主催者側の気持ちになって参加してみたことで、少しですが行事運営に役立つ知識を吸収することができたと思います。この3日間で学んだことを全研に限らず、他の行事にもどんどん役立てていきたいです。また、全研年度に向け、アイデアを盗んでくる気持ちで福岡まで行ってきたので、今度は盗んできたアイデアを改良し、より良いものにしていけたらと思います。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

『第31回全国ローターアクト研修会報告書』

国際ロータリー第2510地区
赤平ローターアクトクラブ 近藤 絢香

平成31年4月28日～4月29日に福岡市で行われた第31回全国ローターアクト研修会に参加させて頂き、私にとっては初めて全国規模でのローターアクト活動への参加となりました。まだまだ勝手がわからず、地区のローターアクトの先輩方をはじめとした皆様にご迷惑・ご心労をお掛けしてしまった部分もあったと思います。また、2年後にはホスト地区として運営に携わる立場となることもあり緊張して臨んだ部分も多々ありましたが、ホスト地区を筆頭とした各地区の皆様のおかげで楽しみながら参加することができました。

今回初めて全研に参加して第一に感じたことは、それぞれの地区のアクターが自分の地区の良さを積極的にPRしつつ、他の地区への敬意を欠く事無く受け止めているという居心地の良さがあるということでした。特にそれを感じたのは、2日目のサブプログラムである『RAC-1グランプリ』です。各地区の特徴的な取り組みをPRしつつ、他の地区でも同様の取り組みができるようにと周知する地区もあったことから、自分たちの地区活動の自慢に終始することなく、他の地区でも是非参考にしてほしいという積極的な姿勢が感じられる発表が多くあったことが素晴らしいと感じました。加えて、エントリー地区の発表の前にホスト地区のクラブの取り組みを紹介した部分も良かったと思います。ホスト地区のPRという部分も大きいと思いますが、地区単位では無くクラブ単位での紹介を聞くことで、普段の例会やクラブ行事についても新たな視点を提供することにも繋がっていると感じました。

気心知れた地区間の砕けた雰囲気での報告は、式典としての形式的な雰囲気から活動報告としての開放的な雰囲気への転換のために一役買っていたと感じています。同じローターアクトでも、全国の各地区・各クラブでそれぞれ違ったことに力を入れて活動をしているということを実感することができ、とても貴重なお話を聞くことができました。その一方で、ホスト地区全クラブの報告となると長丁場になってしまい、本筋であるべきエントリー地区の報告の印象が薄れてしまうという部分は気になった点でもありました。

また、1日目のメインプログラムでは、護国神社を出発するルートでのフィールドワークに参加しました。他地区のアクターとグループになり協力して謎解きをするというシステムは、様々な地区のアクターと関わるきっかけづくりとして非常に良いものだったと思います。その後の懇親会でも名刺交換をゲーム形式で勧める催しがあり、同グループになった人を通じてその地区の他のアクターと交流をしやすくなる等、アクター同士の交流を深める良い機会となっていました。それだけに、時間が押ししてしまったためにグループそれぞれの周辺散策ができず、指定のルートを通るだけでもギリギリという時間配分になってしまったことは少々残念に感じられる部分でした。グループ独自で可能な範囲内で少し寄り道をしたり、ゆっくり話しながら余裕をもって謎解きをしたりという自由度の高さがもう少しあると、より印象深いメインプログラムにすることができたのではないかと感じました。

今回初めて全国クラスの大規模な行事に参加し、後々に自分たちの地区がホストとして今回のような大規模な行事を主宰する立場になるということの期待や不安等感じることは様々にありました。今回の内容で良いと思った点や気になった点を来年度も意識して参加し、より良いものを作り上げていくための参考として積極的に取り入れていきたいと思っています。

『福岡全国研修大会報告書』

国際ロータリー第2510地区
赤平ローターアクトクラブ 金野 凌

2019年4月27（金）～29（日）にかけ、福岡全国研修大会へ参加しました。

初のローターアクトの全国研修大会参加でしたが、他地区の方々と交流し、人と人との繋がり
の大切さ、2021年に札幌で行われる予定の、2510地区が担当する
全国研修大会へのイメージが固まり、多くの事を学ぶ事ができました。

私自身、福岡へ渡航することが初めての経験で、福岡での他地区のアクター、ロータリーとの
方々との交流を通じて、この研修で体験したことや学びをご報告致します。

私は、内向的な性格で、自分から積極的に人とコミュニケーションを図ることを苦手としてき
ました。しかし光生舎で働いていくなかで、利用者とのコミュニケーションの重要性はもちろん
のこと、職員間とのコミュニケーションの重要性に気づき、自分から積極的にコミュニケーショ
ンを図る能力の低さを痛感しておりました。

研修を通じて、他地区との交流の中で、幾重にも名刺交換、意見交換を行いました。自分が、
どのような組織に所属していて、どのような活動を行っているのか、どのような考えを持ってそ
の組織に所属しているのかを、懇親会ではたくさんのアクターと交流し、意見交換することがで
きました。私自身を振り返った際に、以前と比較して研修後は初めて対面する方ともコミュニ
ケーションを図ることが出来るようになったと考えます。

職場は、たくさんの思いやそれぞれ違った価値観を持った方が日々職務を遂行しています。そ
の中で、考えや価値観は違って、最終的に同じ目標に向かわなければ、チームとしてより良い
結果には、結びつかないのではないかと私は考えます。そういった中で、同じ目標をチームで共
有するには、たとえ考えや価値観が自分と合わない人ともコミュニケーションを図らなければな
らない局面が、今後何度も訪れると考えます。

しかし、今回の研修を通じて、研修のプログラムに組み込まれ半ば強制的に初対面の人とコ
ミュニケーションを図る場があったことは、今後、光生舎でチームで職務を遂行する局面が増え
てくる私には、非常に大きな経験となり、必ず業務に活かせるものであると考えます。

2021年に札幌で行われる全国研修大会は、おおがかりで緻密な事前準備が必要であると予想
されます。約2年間かけて、完成に近づけていくなかで、思わぬアクシデントや、トラブルも起
きるのではないかと思います。そういったトラブルに直面した際に、知らない人同士でもコミュ
ニケーションを円滑に取ることが出来なければ、全く知らない人と準備を進めていく事になった
場合そのトラブルも回避することは、難しいのではないかと考えます。

しかしたとえ、初対面同士の間でも、的確な距離感を持って、友好的にコミュニケーションをとることが出来れば、やがて困った時は、お互いに助け合おうと思うようになり、信頼関係が構築されていくようになると思います。その信頼関係こそが、トラブルやアクシデントに直面した際に、お互いをカバーし合い、それを乗り切るチームワークに繋がるのではないかと考えます。

私が赤平ローターアクトクラブに入会したのも、何か地域の役に立つことのできるような奉仕活動を行いたいと強く思ったのが、はじまりでした。

研修において他クラブの紹介のプログラムの際には、献血や、町の花壇の整備等、赤平のクラブでは、行ってない活動もたくさん行われているのを、目にしました。次年度私は、社会奉仕委員委員長という役職を担いますが、社会奉仕活動の一環として取り入れてみたいと強く感じました。

研修の際に多くのロータリーとの方々と関わる機会が多く、交流の中で、ロータリアンの方々が自身働いている中での自身の大切にしていることや、考え、価値観等を多くのも吸収することができました。そのような交流の中で、自分の社会性を育むこともでき、今後自分の年齢よりも年上の舎員や外部の方と、密に仕事のプロジェクトを進めていくという機会があった際には、今回の研修でのロータリー方々との交流で培った社会性を存分に活かせるものであると考えます。

研修に行かせていただいたことの感謝を忘れずに、日々の業務に今回の経験を必ず還元するという思いで、業務に励みます。

『全国研修会を終えて』

国際ロータリー第2510地区
赤平ローターアクトクラブ 武田 洋平

4月28日、29日に福岡で開催された全国研修会に参加させていただきました。
今回は例年通りではなく、地区大会そしてインターアクト研究会との合同開催ということ聞き

- ・ どの様な式典になるのか
- ・ 合同開催をすることのメリット

に注目しようと思いました。

まずは全研初日。

開会式の前にオープニングセレモニーが執り行われ、そこにはインターアクトのメンバーの姿もありました。

インターアクト創設の経緯や今回のインターアクトの研究会との合同開催の思いを聞くことができました。

しかし、オープニングセレモニー終了後、インターアクトの姿は無く、それ以降も合同でのプログラムがあるわけでも無く初日が終了しました。

私を感じたことを率直に申し上げると、私たちはインターアクトについてのお話をロータリアンの挨拶で聞いただけで、合同開催のメリットを感じる事もなく終わってしまい、同時開催をすることの良さは何一つ知ることができなかった。

そこに私は有意義という言葉当てることができませんでした。

せっかく開催したのであればメインプログラムの一部を合同にしてみたり懇親会を同席にしてみ何かしらの物足りなさを感じました。

話は戻り、次に全国研修会についてです。

メインプログラムで私は、伝統工芸体験プログラムに参加しました。

内容としましては

- ・ 実際に機織師として小倉織りを製造している方の講演
- ・ 福岡のお祭りに則った形での名刺交換。(アイスブレイク)
- ・ 小倉織り体験
- ・ 利きとんこつラーメンスープ
- ・ 博多人形絵付け
- ・ 小倉織りの糸を使ったミサンガ作り

を体験しました。

一般参加者としてはどれを取っても本来接する機会の少ない内容だったのと、他地区の方々とグループになることで楽しく時間を過ごすことができました。

懇親会では余興としてゲームを行っていましたが、その一つにe-sportsを取り入れたりと現代に合わせコンテンツにしていたのは時代に合わせた行事作りという意味でとても感銘を受けました。

立食式にすることで交流の時間が増えるのも全研ならではのなと感じました。

2日目の最初のプログラムはRAC-1グランプリと思っていたところ、2700地区RACによる活動報告でした。

各クラブの活動報告を聞き、その後にRAC-1グランプリにつながるといった流れでした。

そして閉会式には次年度地区代表の決意表明の他に2700地区の地区大会のプログラムもちらほら。全研2日目というよりは地区大会に全研2日目が所々混ざっているという感想を持ちました。

長々となっていましたでしたが、今回の全研は一参加者の立場で言えば楽しい行事だった。と言えますが、全研運営、開催の意味を考えると本当に合同で開催する意味はあるものなのかと考えさせられるものとなりました。

友好クラブとして台湾のRACも参加していたのですが、両国の国旗の違いに差があるといった等のホストクラブ側のミスも耳に入りましたが、この件については自分たちが担当する際には入念にチェックを行うことができれば対策は可能であると考えました。

2日間を終えて、今回の異例の開催を経験した事で、行事の本分とは何かという事を考えさせられました。

新しい事をすれば評価対象になるという考えが少しでも芽生えつつある昨今ではありますが、一つ一つの重要性に目を向け、何を新しくするべきなのか、何を残すべきなのかをもう一度考え直すいい機会になったと思っています。

当地区も全研を控えているのと同時に既に定番となっている行事に対する向き合い方をもう一度見つめ返してみようと思いました。

『4/28-29 全国ローターアクト研修会@福岡 感想文』

国際ロータリー第2510地区
赤平ローターアクトクラブ 橋本 結衣

ローターアクトに昨年11月に入会し、まだ地区大会にも参加したことの無い私にとって全国規模での今回の研修会は、圧巻の一言でした。

オープニングセレモニーでの高校生による琴の生演奏はとても良かったと思います。箏曲部の部長からの挨拶もあり、PRの場面や資料にも紹介されていることで双方の利益につながっていると感じました。また、ご当地のお菓子やお土産、観光の資料なども今回の研修会でもらい、地域のアピールがされていました。北海道での研修会も、観光や食、北海道らしさを入れたものにしていく必要があると感じました。

メインプログラムは、フィールドワークに参加しました。事前にもらっていた名札にチーム分けのシールが貼られていました。会場内には風船が何か所かあって飾りかな？と思っていましたが、シールと同じ色の風船の近くに移動してくださいとアナウンスがあり、意味がある装飾だったんだ、と驚きました。そのおかげもあり、移動は比較的スムーズでした。4~5人でチーム編成されており、特に自己紹介の時間は設けられていませんでした。しかしそこはローターアクト、皆自分から積極的に名刺交換をしてチームのメンバーともすぐに仲良くなることができました。私は熊本、石川、大阪、愛知の人と一緒にになりました。今年卒業のベテランお姉さんが2人いたのですごく助かりました。違う地区と交流しやすいプログラムは私のような引っ込み思案にとってありがたいと思います。行先は護国神社と公園、目的地まではバス移動でした。バスの中ではOBの方（本来の担当が松葉杖を使う状況になってしまい、急遽代役として引き受けたりしい）が案内やゲームの説明をしてくれました。一番後ろの席はエンジン音がして聞き取りづらいと声があったため、もし同じようなことをするならマイクを使用したほうがいいかもしれません。公園内を歩き、お題に答え、ゴール地点で最終的な課題にクリアすると飲み物とバッヂをもらいました。バッヂがかっこよくてとても嬉しかったのと、他の地区の人とも仲良くなれたため、充実感がありました。他のメインプログラムの伝統工芸品体験も、自分で作成したものを持っていて楽しそうでした。ただ、代表者会議に参加している方たちにもせっかくだから手土産的なものが何かあったらいいのにと感じました。

懇親会のお食事は、明太子を使った料理や名産のものが多くて美味しかったです。料理の近くに少し解説が書いてあるのもあたりして食べ応えがありました。人数がたくさんいるのとそれぞれ懇親会に行くだろうというのを見越して量は少なめだったのか、あっという間に食事が無くなってしまい少し残念でした。名刺交換を促すシステムになるほど、と思いました。

2日目サブプログラムではRAC-1グランプリが最初に行われてもよかったのかもしれませんが。北海道の広さを生かした行事を見事にPRしきった石川さんの手腕で1位を受賞、感動しました。とてつもない距離を走った先輩方の功績もあっての受賞だと思います。

楽しかった、新鮮だった、他の地区も頑張っていることを知り刺激になった、という気持ちが大きかった反面、この規模で北海道開催するのか、出来るのだろうかと不安も感じた全研でした。次年度開催の愛知の方は、PRの缶バッジをもってきており配っていました。今回の参加で学んだことを生かしつつ、北海道開催に向けて少しずつ固めていかないと、と感じました。

『第31回ローターアクト全国研修大会（福岡） 報告書』

国際ロータリー第2510地区

赤平ローターアクトクラブ 長谷川 大介

2019年4月27日（土）～29日（月）にかけ、第31回ローターアクト全国研修大会に参加致しました。今研修は福岡で開催（福岡地区担当）され、全国のローターアクト、ロータリアン等、国際ロータリーに関わる多くの方々と交流し、国際ロータリーの様々な活動分野を学ぶ事ができました。

全国大会の参加が初めてであり、学びや体感を得る事が多く、2021年度に当地区で開催する全国大会の実施に向けて参考となる事がありました。

今大会は1000人規模の行事であり、大多数の人数に対しての運営方法の大変さを知りました。台湾からも60数名の参加者がおり、国際的な事業展開でした。司会者の進行速度や壇上の配置等、参加者に配慮できた会場設営が成されていると感じました。掲げている国旗の大きさが異なる事、国旗が少々シワになっている部分があり、最終確認が必要であると感じました。

【1日目】

プログラムは複数グループ構成がされました。赤平ローターアクトクラブは9名参加（北海道西部では約20名）しましたが、各グループで同じ都道府県の人が多くなる事はありませんでした。「各地区の多くの仲間と交流し、普段知り得ない事を知る、活動や個人を理解し共有する」という、社会・地域貢献活動で重要な要素を体感できました。関西や中部の活動や会社、大学での取り組みを知る事ができ、可能性の視野を広げる事もできました。

初めて一緒に活動をする人、関係機関等、多くの人たちと関わります。相手を知ること、理解し承認する事の大切さを改めて実感しました。

是非、多くの後輩にも人間通しの良い刺激を味わってもらいたいと感じました。

内容としては「管崎宮」（ソフトバンクホークス優勝祈願参拝場所）で現地の歴史や環境等を学ぶ事ができました。また、「株式会社ふくや」（明太子製品製造）では、製造の過程や、存続の意義、味覚について学ぶ事ができました。

【2日目】

各クラブの活動等、クラブ紹介がありました。自分のクラブの事を知ってもらい、他のクラブを知る事で、自クラブに何が必要なのかを考えるポイントとなりました。

地域社会への貢献活動で大切な事だと思い、各個人が勤務している会社にも役立つ部分もありました。

地区の発表で2510地区が優勝しました。北海道のPRに合わせ、成果が形となった結果です。この誇りを壊さないように、今後の活動を考えて行かなければならないと感じました。

【まとめ】

人を集める事は、まず自分達が集まり1つにならなければなりません。

その上、PR方法（積極的なコミュニケーション・足を運び顔を出す・情報発信等）を推進する必要があります。

日本全国のアクター、そして一人でも多くの海外のアクターが参加する為に、何をするのか（できるのか、やるのか）、全員が楽しむ為に何が必要かを踏まえ、次年度の地区役員の1人として貢献したいと思える大会でした。

大切なことは、どんな大きな事でも仲間と協力し合う事が重要です。

1人が皆を、皆が1人をフォローして、高め合わなければ、全国大会の様な特に大きな行事を開催する事は難しいと思います。

自分がこの先、できる事として「皆が主役」「ハウレンソウの徹底」「会員増強」「チームモチベーションの向上」を考えて「たごまれる」様、携われたらと考えます。

『第31回全国ローターアクト研修会参加所感』

国際ロータリー第2510地区

千歳ローターアクトクラブ 佐々木 文也

今回の全研は、会長としての自分にとって最初で最後の全研になるため、たとえ千歳からの参加が自分一人でも絶対に参加するつもりでした。ですが、千歳から参加できると言ってくれた仲間のおかげで一人ではなく、とても心強かったです。また、2510地区の大変頼もしい仲間達も一緒だったので、とても楽しい全研となりました。帰りの飛行機ではトラブルもありましたが、無事に北海道に帰ってこられて、本当に良かったと思います。

全研についてですが、前夜祭に関しては、言うまでもなく楽しかったです！地区の皆とただただ楽しくお酒を飲ませて頂き、自分が最年長だとかそういった事を気にせず会話してくれた皆に感謝しかありません。本当に楽しい夜でした。福岡の食べ物(主にラーメン)も堪能させていただきました。

さて、ここからは真面目に…全研一日目ですが、やはり全国というだけあり、スケールが違い、本当に驚かされました。また海外からもアクターが来られており、アクトが世界規模なのだと再認識し、二年後はこれを2510地区が担当するのかと、圧倒されました。そして何より、一般プログラムをこの人数で行うとなると、二年後は千歳が担当しているため、言いようのない不安に襲われました。

実際、自分が参加したフィールドワークは開始から時間がおしており、自分のグループは課せられた課題をこなせず観光だけして終わりました。個人的には楽しかったのですが、スタッフ全員が「できる人間」じゃないといけないのかと、楽しさと不安の半々の気持ちになりました。

一般プログラムが終わり、懇親会になりますが、こちらはただひたすら写真ばかり撮っていました。自分は今年度で卒業であるため、交流より情報を持ち帰ろうと展示物や雰囲気の写真撮影しつつ、美味しい食べ物を頂いておりました。また、地区ごとにPRする時間があるのだとか、挨拶回りだとか、懇親会は色々な事をする時間であると、勉強させていただきました。また、その後は代表者の皆とは別れ、2510地区で二次会へ行き、やたらとお酒を飲んだので、二日目は参加出来ないなと覚悟して眠りにつきました。

全研二日目、無事に起床。地区の皆も誰一欠けず二日目も参加出来て、安心しました。二日目は、地区ごとに活動報告をするという時間で、色々な例会を行っている、メンバーは少なくとも活動している等、様々なクラブを見させて頂き、自分が恥ずかしくなりました…。所属人数は多いのに参加人数が少ないという千歳の現状、無力さを痛感しました。ですが、いい刺激になり、有意義な時間でした。あと、小野寺地区代表と石川地区幹事、地区を代表しての活動報告、本当にお疲れ様でした&ありがとうございました。

今年度の全研、参加して本当に良かったと思います。福岡の皆さんの全研を成功させるという思いを肌で感じる事が出来たり、福岡を好きになり、また来たいと思えたり、地区の皆とこんなに楽しい旅が出来たりと、忘れられない思い出になり、勉強になりました。…今回来られなかった仲間にもぜひ、来年の全研は行ってほしいと思いました。このような機会を頂き、本当にありがとうございました！

『全研（福岡）感想文』

国際ロータリー第2510地区
千歳ローターアクトクラブ 城地 和哉

はじめての参加で何もわからない状態でしたが、実際に体験することによって準備段階・当日含めて、自分たちが何をすれば良いかよくわかりました。

次回開催地の名古屋の宣伝などを見ていると、来年は自分たちも同じ立ち位置なのでもう時間は迫っていることも認識しました。

一人ひとりが自立して役割をこなしている福岡の方をみて、2510地区では新規会員また実働していないメンバーももっと巻き込んでいく必要があると感じました。

上記を踏まえた上で参加できなかったメンバーへ100%伝える事はできませんがしっかりと情報伝達します。千歳の役割である一般プログラムの内容も早急に固めようと思います。

2510地区の結束力を高める必要もあると思いますので率先して懇親会や地区行事などに参加し皆が仲良くなるよう動きます。

また職業柄、情報発信の分野は得意としておりますので、SNS発信やLINE@のようなツールを駆使して全研の集客をサポートしていこうと思います。



◆発行年月◆ 令和元年6月

◆発行元◆ 第31回全国RA研修会

参加者代表 石川 樹

(地区幹事・赤平RAC会長)